

「地域医療連携パス(胃がん・大腸がん)」の推進について

医療連携・患者支援センター 小沢 正成

当院では、「地域医療連携パス(以下、連携パス)」の運用を推進しています。

「連携パス」と聞いて、何のことかよくわからない方が多いのではないかでしょうか。「連携パス」とは、各医療機関が連携して、共通の診療計画書をもとに、患者さんひとりひとりの病状や回復経過にあった最適な医療を提供する仕組みのことです。スムーズに適切な医療が受けられ、患者さん自身も、今後の診療の流れを理解しやすいことが「連携パス」のメリットです。

当院では、2009年8月から脳卒中、2011年6月から大腿骨頸部骨折の患者さんに「連携パス」を使用して治療を行って参りました。これまでに、「連携パス」を使用して治療を受けた患者さんの数は、脳卒中・大腿骨頸部骨折併せて150人以上いらっしゃいます。現在は、2013年2月より運用を開始した、胃がん・大腸がんの「連携パス」の推進に特に力を入れています。

胃がん・大腸がんの連携パスは、入院治療後の患者さん(胃がん:ステージI 大腸がん:ステージI, II)を対象としており、退院後に当院と地域の連携医療機関を、診療計画書に沿って計画的に受診していただけます。当院は、県内23医療機関と胃がん・大腸がんの「連携パス」について連携を結んでおり、今後も連携医療機関を増やしていく予定です。

地域の連携医療機関の中には、「連携パス」の使用に慣れていないところもありますが、当院では医療連携・患者支援センターのスタッフが、患者さんの受診前に、連携先の医療機関を訪問し、「連携パス」の使用について説明を行うなど、安心して患者さんが治療を受けられるように努めています。どうか、「連携パス」の運用にご理解・ご協力ををお願いいたします。



連携医療機関「ゆりのきクリニック」の上田 哲郎院長と連携パスの説明を行う医療連携・患者支援センタースタッフ

外来受診のご案内

- 開院時間 8:10
- 受付時間 初診 8:30~11:00 再診 8:30~11:30
※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- 休診日 日曜日、祝祭日、第3土曜／創立記念日(6月10日)
年末年始(12月29日~1月3日)
- 代表電話番号 043-462-8811
予約変更専用 043-462-0489(平日14時~16時)
- 健康保険証(原本)、その他の公費負担受給者証(原本)を必ず持参下さい。
- 各科外来担当医はホームページ
<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。

お見舞いについて

- 【面会時間】**
- 平 日 15:00~19:00
土・日・祝日 11:00~19:00
(2階西病棟13:00~19:00)
- 防災センターで面会手続きの上、お見舞いカードを装着してお入り下さい。
- 時間内の面会が無理な場合は看護師にご相談下さい。
状況に応じ時間外会許可証を発行いたします。

編集後記

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定した昨年、開催決定だけでも感動しました。そして、2020年にはどんな感動が待っているんだろうと、考えるだけでもワクワクします。

オリンピックの感動と共に、自分自身にもご褒美があげられるような2020年になるように、まずは今年の第一歩を踏み出したいと思います。

皆様にとって、素敵な一年になりますようお祈りしております。

(鶴ヶ崎)



編集・発行：東邦大学医療センター佐倉病院 広報委員会
〒285-8741 佐倉市下志津564-1 TEL.043-462-8811(代表)
発行月：2014年1月【年4回(1・4・7・10月)発行】
URL：<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>

SAKURAdayori

東邦大学医療センター
佐倉病院の基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

2014年新年挨拶

院長 加藤 良二



2014年、年頭にあたりご挨拶申し上げます。新しい年を迎えたことをお慶び申し上げるとともに、常日頃皆様には東邦大学医療センター佐倉病院を御信頼頂きまして感謝申し上げます。

さて昨年は全国的に記録的な大雪で始まりましたが、今年も寒い冬のようあります。佐倉病院では昨年3月から地域連携・患者支援センターに新しく患者相談窓口としてのコンシェルジュを開設しました。事前紹介受診される際の御予約や皆さんのお悩み相談に好評を頂いております。お陰様で外来におかかりの際に紹介状を持参される方の割合が増えております。また当院より精密検査の後や退院される方々でかかりつけの先生への逆紹介も順調に進んでおります。佐倉病院は急性期や高度な医療を提供するという大学病院本来の機能に近づいてきています。再診受付機を新しくし、自動精算機を導入するなど待ち時間の改善に努めていますが、朝一番の採血での待ち時間でまだまだお待たせしており心苦しく存じております。御紹介頂いた患者さんは待ち時間も短くなっていますが、さらなるサービスの向上に努めて参りますので皆様には予約制の周知・徹底に御理解、御協力をお願い申し上げます。

入院して手術をお受けになる方も増えており、着実に治療範囲も広がっていますが、入院期間を短縮し効率的なベッド稼動を行った結果、ベッド稼動に少し余裕ができました。本年はより効率的な手術室の運営を行って更に高度な手術を、より多く提供できますよう努めます。また以前より満床や一次、二次の救急対応などで救急外来に掛かられる方の受入が困難な状態が続いていましたが、地域中核病院として初期対応の大切さを再認識して徐々に受入できるようになってきております。研修医と彼らを指導する内科を中心とした初期対応とバックアップする他診療科との連携を更に密にして、様々

な疾病に対応できるよう努めますが、当院は慢性期や回復期疾患に対応できる充分な余裕はなく、急性期～亜急性期の高度医療を担うべき立場と理解しておりますので宜しく御配慮くださいますようお願い申し上げます。

現在、千葉県のがん診療連携協力病院として指定を受けておりますが、御不便をおかけしておりました放射線治療を本年4月から開始できることになりました。外来化学療法室等の整備とともに、認可のハードルが高くなります「がん診療連携拠点病院」を申請する準備が整いました。佐倉市を中心とした地域の中核病院として、災害拠点病院の申請とともに強力に進めてまいります。

昨年、臨床検査部を中心として研究室の再整備を行いました。院内の各診療科のみならず、当院の看護師、技師や習志野にあります理学部、薬学部との新たな共同研究活動も盛んに行われております。高度な研究・診療を糧として東邦大学の教えを守り、地域社会に貢献できる良き医療人の育成にも努めております。

今年は全身麻酔での手術をお受けになる患者さんを対象に、術後肺炎などの合併症を予防する目的で東京歯科大学の協力を得て、手術前や手術を受けられた直後などに大事な口腔ケア外来の開設を予定しています。さらに良い医療を目指して、各診療科、看護師、技師、事務など佐倉病院全職員が一体化したチーム医療を推進し、職員が誇りを持ち、互いに理解、協力し合える病院となれるよう努めます。

今後とも当院に課せられた使命を御理解され、佐倉病院の機能を損なうことなく診療が進められますように、より一層の御協力をお願い申し上げます。終わりに、本年も佐倉病院に関係される皆様にとって、お健やかで幸せな良い年となりますよう、職員一同お祈り申し上げております。

うつ病のリハビリテーション～職場復帰支援を中心に～

メンタルヘルスクリニック 桂川 修一

1996年に約43万人だった「うつ病」患者は、年々増加の一途をたどり、2008年には約104万人にのぼっています。この増加を受け、医療をはじめとする支援体制の強化が打ち出されています。2010年、厚生労働省は「安心して生きられる温かい社会づくりを目指して」をテーマに、支援策として5つの柱を掲げました。職場におけるメンタルヘルス対策・職場復帰支援の充実はそのうちのひとつです。

このような世の中の流れに先んじて、2007年、当院では、うつ病のリハビリテーションとして休職中の勤労者の職場復帰支援を目的としたデイケアを開設しました。デイケアでの活動はリワークプログラムと呼ばれ、①生活習慣改善、②基礎体力回復、③基礎的作業回復、④心理教育に、対処技能獲得のための3つの訓練(⑤ストレスマネジメント、⑥グループミーティング、⑦コミュニケーション・スマーリングループ)を加えた7つ支援から構成されています。

今回の市民公開講座では、職場復帰支援を中心とした、うつ病のリハビリテーションについて各専門スタッフから説明致しました。以下に、各スタッフからの説明概要を紹介します。

1つ目として、リワークプログラム中にある、⑤ストレスマネジメントについて、端臨床心理士が解説しました。ストレスマネジメントにおいて重要なことは、ストレスをなくすことではなく、ストレスだと感じる自分自身の考え方や行動のクセに気付き、見直し、対処策を増やして軽減させることだ、という心理士の立場からの解説は出席された皆様方にとって

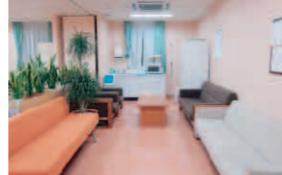
て、新しい視点だったのではないでしょうか。

2つ目として、前田作業療法士および松田精神保健福祉士より、このプログラムを利用しながらどのように復職していくのかについて、事例を交えながら説明するとともに、リワーク利用のメリットや、そもそもリワークとはどのような場なのかについても、紹介しました。

3つ目として、職場復帰判定にかかわる産業医の立場から平客員教授が、復職可否の判断において重視している7条件を具体的に提示しました。①症状の回復、②生活リズムの安定、③朝一定の時間に活動が開始できること、④運動など身体的機能の回復がみられること、⑤十分な就労意欲があること、⑥所定の労働時間で就労できること、⑦本来の業務を遂行できることの7つです。このような条件に達していることが、職場復帰には重要です。

最後に、鈴木社会福祉士から、職場復帰はうつ病に罹患した本人の努力だけで達成できるものではなく、家族の支援も大切であるという話がありました。家族の不安に対応できるよう、休職中の社会保障制度や地域の社会資源活用に加え、家族への心理的支援もリワークプログラムにおいて重要なポイントです。

～ご参加いただいた皆様の多さに、改めて「うつ病」対策の重要性を認識する機会となりました。ありがとうございました。～



デイケアの様子

2014年 市民公開講座のお知らせ（入場無料・申込不要・200席）

| 開催予定日 | 講演予定テーマ | 担当 |
|----------|---|---|
| 1月25日（土） | 「耳科手術・鼻科手術の最前線」 1. 聞こえをよくするために 2. 鼻づまりをよくするために | 耳鼻咽喉科 |
| 2月22日（土） | 「急性心筋梗塞」～その時、何が起こっているか？～ | 循環器センター |
| 3月29日（土） | 「美しく健康な皮膚を保つために」 ～アトピー・アレルギーと紫外線皮膚癌の予防と治療～ | 皮膚科 |
| 4月26日（土） | 地域で考えるケアと治療 「歩行障害と共に歩む～診断と治療」 | 神経内科・脳神経外科・整形外科・薬剤部・リハビリテーション部・看護部・メディカルソーシャルワーカー |
| 5月31日（土） | 「糖尿病治療の最前線」 ～食事・運動療法から最新の薬物治療まで～ | 糖尿病・内分泌・代謝センター |
| 6月14日（土） | 「お父さんの健康を考えよう！」 ～前立腺の病気を知ろう～ 前立腺肥大症・前立腺がん～ | 泌尿器科 |

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした市民公開講座を企画しております。多くの方にご参加いただき、病気の予防や早期発見、普段の生活に役立てていただければと考えております。

<訂正とお詫び> 2013年10月発行の本誌(Vol.16)において2月開催予定の日付に誤りがありました。
ここに訂正してお詫び申し上げます。（誤）2月25日（土）（正）2月22日（土）

いずれの講座も14時から当院東棟7階・講堂で開催いたします。詳細は、テーマごとに院内掲示およびホームページなどでご案内いたします。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課にご連絡下さい。

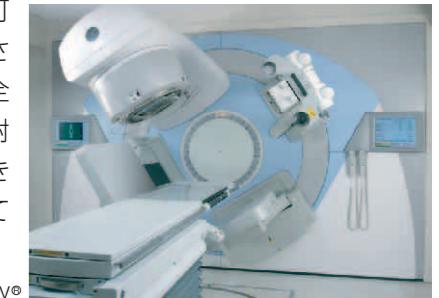
放射線治療の紹介



放射線科 磯部 公一

射線が照射されて1回の治療が終了となります。検診などで撮像する胸部レントゲンなどと同様、放射線が照射されているからといって熱い、痛い、かゆいなどと感じることは全くありません。このような日々の治療を週5回（月曜日から金曜日まで）、6週間程度かけてコツコツと積み重ねていくのががんを治すための放射線治療の原則です。しかし、症状を和らげる場合は、2週間前後の治療で目的を達成することも可能です。

さて、平成26年4月より当院でもようやく放射線治療が可能となる予定です。当院で導入される治療装置（写真）ではごく一般的な放射線治療は当然のことながら、強度変調放射線治療（IMRT）やピンポイント照射と称される定位照射を行うことも可能です。現在、皆さんに安心して、安全かつ高精度な放射線治療が提供できるよう準備を進めているところです。



Elekta Synergy®

看護部：認定看護師紹介

がん性疼痛看護認定看護師 塚本 佳子



態も大きく影響すると言われています。これからも、患者さんが様々な想いを言葉にできる相手として、安心できる存在でいられるよう心掛けたいと思っています。

これまで、入院中の患者との関わりが主でしたが、外来で『がん患者相談』をお受けする準備も整ってきました。ご病気のこと、今後の療養生活のことなど、お困りになっていることがあれば、ぜひご相談にいらしてください。一緒に考えさせていただきます。



がん患者相談室にて